



# 芝小だより

## 第四月号

発行所 港区立芝小学校  
〒105-0014  
港区芝 2-21-3  
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)  
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



### 「次」に向けての第一歩

校長 齋藤幸之介

先月の卒業式の際にはすでに桜が咲き始め、それからしばらくすると満開になりました。「桜は卒業式のもの」とすら思えるほど早くにその盛りを迎えました。しかし、季節が少し逆戻りした「寒の戻り」とも言われる期間がとて長く、散りゆく花びらたちは、それこそ粘り強く春の賑わいを演出しています。本校にもつとめる新しい仲間たちは、美しく舞う薄桃色の中でスタートを切る姿を想像し、これから活躍を大いに期待をするところでもあります。

御子様の御入学並びに御進級、誠におめでとうございます。二百九十三名の子供たちは、本日より平成三十一年度の学校生活を始めました。新たな気持ちで登校してきた子供たちは、この一年を素敵な時間にとしようと胸躍らせています。

再三申し上げてまいりましたが、昨年度は開校百四十周年と様々な取組をしてまいりました。これもひとえに地域の皆様、保護者並びに御家族の御理解とお力添えの賜物と、改めて深く感謝をいたします。大きな区切りが過ぎましたが、「次は百五十周年だね」と、十年後に更なる御期待をいただくお言葉を頂戴することもあります。有難く、また身が引き締まる思いがします。そして、「次」に向けてどのような学校にしていけるのかをしっかりと考えていかなければならないと思っております。

### 例文④「新しい」と「おもしろい」

「新しい教育の読み方」の「つとめて」

私共教職員が学校の教育活動を編成していくときには学習指導要領を踏まえることとなっております。平成二十九年にはこの改訂が行われ、来年度には全ての内容が新しい学習指導要領に基づいたものとなります。今回の改定には次のような表現も見られます。

「特に、義務教育段階はこれまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全くことなる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はない。」

また、

「平成二十年改訂の学習指導要領（今活用されているもの）の枠組みや教育内容を維持した上で」

と書かれています。つまり、今まで取り組んできたことが一定の成果を上げているという認識をもってよいということになります。

東京学芸大学名誉教授 児島邦宏先生は、新しい学習指導要領が「分析的で細かくなった」と捉えられています。児島先生は、「分刻みの時間編成」といった表現もお使いになっています。しかし、本来子供たちには「活動と時間と空間が保障」されなければならず、もっと大きな「まとまり」を意識しながら、その中で「めりはり」を付けていくことを忘れてはならない、と主張されています。

新しいさを目指す前に、今までの成果を素直に受け入れ、また、子供たちを中心に据えることを忘れてはならない、と考えています。

### 次なる挑戦は「授業」、そのために

冒頭に申し上げたように、昨年度は百四十周年を中心に据えた価値ある活動を通して子供たちの成長を促してきました。本年度は、

今までの成果を踏まえながら新しい教育に挑戦する年であると捉えています。昨年も申し上げましたが、令和二年二月十四日には、港

教育委員会研究パイロット校として、ICT機器の活用を踏まえた国語科の実践研究の成果を発表します。また、本年六月二十二日には、全国社会科研究協議会という研究会を実施し、社会科の授業を公開します。苦労は伴いますが、教員は他に授業を提案することによって自身の指導力を向上させることができます。また、公開すること自体を目的としたパフォーマンスと捉えられることのない地道なものにしよう、という高い意識を本校教職員は有していると認識しています。これらの実践発表は、何よりも、子供たちが主体的に追究し、また子供たち同士で協力したり教職員や地域の方々に働きかけたりしながら、自ら学びを深めていけることを目指しています。何よりこの取組が本校の子供たちに大きな影響を与えるであろう、と大いに期待をしております。

平成の時代が終焉を迎え、新しい令和の世がやってきました。この転換期とも呼べる時を、一方で「節目」と捉えることができる芝小は、皆様の御期待に応えるべく、地道に一歩ずつ進んでいくことが大切であると考えます。そして、その一つが、学校生活の中心に位置付く「授業」にあることを改めて確認したいと思っております。いかがでしょうか。

本年度も、地域の皆様、保護者ならびに御家族の皆様には多方面に亘る御理解と御協力を賜りたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(参考)

小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 総則編（文部科学省）

「鍵は、単元開発」にあり「東京学芸大学名誉教授 児島邦宏

内外教育（時事通信社）